

# 家庭科部会

**研究主題** 自分の思いや考えをもち、よりよい生活を目指していける子どもを育てる指導

## 1 主題について

自分の思いは、家族との関わりなしでは考えることはできない。家庭生活をよりよくするためには、生活への関心を高めることが必要である。これらを踏まえ、子どもたちが自分の家庭生活をよりよくしようと意欲を高め、実感を伴った学習を進められるように本主題を設定した。

## 2 今年度の取組

| 月 日   | 実践内容                      | 月 日    | 実践内容                      |
|-------|---------------------------|--------|---------------------------|
| 4月12日 | 第1回総合研究会<br>研究主題設定・年間計画作成 | 10月11日 | 指導案検討会<br>(有浦小学校)         |
| 8月1日  | 夏季実技研修会<br>(有浦小学校)        | 10月31日 | 第2回総合研究会<br>授業研究会 (有浦小学校) |

## 3 研究内容

### (1) 夏季実技研修会

- ・期 日 平成24年8月1日(水) ・会 場 有浦小学校
- ・研修内容 「外国料理体験～タイ料理～」
- ・講 師 谷口ユパ先生・高橋信子先生

外国の食文化にふれる良い機会に恵まれた。今回挑戦したメニューは、香辛料やココナツミルクを使ったタイ料理で、「エビのカレー炒め」「ナスのタイ風サラダ」「タピオカのデザート」の3品である。

大北会員4名を含む11名が参加し、3つの班に分かれて調理した。調味料の分量を計る場面やポイントとなる調理の場面では、ユパ先生の指示を仰ぎながら作業が進められた。

会食の際には、タイの香辛料や食文化についてたくさんの質問が出され、日本の食文化との違いを感じながら味わった。



【調理のポイントをアドバイスする谷口先生】



【エビのカレー炒め・ナスのタイ風サラダ・タピオカデザート】

### (2) 授業研究

- ・期 日 平成24年10月31日(水) ・会 場 有浦小学校
- ・題材名 6年「楽しい食事を工夫しよう」 ・授業者 佐藤 昭人  
～めざせ、じゃがいもシェフ～

#### ① 授業者から

- ・栄養のバランスについて考えることに重点を置くために4品の中でも4種に限定し、「おかず」ではなく「主菜」「副菜」まで学ぶ計画を立てて実践してみた。
- ・25品のカードからねらいに合う献立に向けてグループで話し合っ、考えをまとめてほしいと願ってグループ活動を取り入れた。
- ・5年生から始まった家庭科は、朝食について考える活動が多いが、夕食について考える機会が少ない。そこで、あえて今回は夕食の献立に挑戦した。

## ② 協 議

- ・グループでの話し合いは、活発な意見交換ができた。
- ・教師の献立の提示、画像での具体的な献立の提示は、栄養のバランスについての理解が促され、有効であった。
- ・個にかえて献立を考えた場面は、自分を見つめ直すことにつながった。
- ・生活改善カードは自分の生活に目を向け、実践につながり、効果的であった。ぜひおうちの方にも見てほしい。
- ・個の献立をもとにグループで検討した方がより気づきにつながったのではないかと。
- ・メニューカードシールは献立が限定されてしまうため、献立を書き込む等の方法もよい。
- ・限られた時間でねらいを達成するために、題材の内容を吟味することが大切である。
- ・教師の意図ははっきりしていたが、主菜、副菜の捉えや必要性について検討の必要がある。



【献立を見直す子どもたち】

## (3) 指導助言 (八代 英樹 指導主事)

- ・学習のまとめの掲示は、環境づくりとして効果的であり、授業でも活用されていた。
- ・集中して学習に取り組む姿から、学級経営が良好であることが分かる。
- ・授業の進め方にメリハリがあり、テンポもよく、児童が集中できるものであった。指示も簡潔であったため、活動に充分時間を割くことができていた。また、教材教具の工夫が充実しており、児童の活動への素早い取りかかりや活発な話し合いにつながっていた。
- ・グループ活動の後、各班の献立を見比べて、不足を補ったり改善のための解決方法を考える時間を取っていてよかった。教師の献立から改善策を考える場面も効果的であった。
- ・テレビ画面での説明が分かりやすかった。
- ・最後に個人にかえて活動したことは、実践につながるものである。
- ・食事カードは今後、家庭との連携として活用したり紹介したりすることで、さらに実践につながるができる。
- ・今後、「食育の充実」に向けて、小学校では求められていること一つ一つをしっかりと身に付けること、食への関心を高めることを目指して活動してほしい。
- ・小・中の学習内容を明確にして題材構成してほしい。主菜・副菜等の考え方や、量や地域の食材は中学校で扱う内容であり、小学校では3つの食品グループのそろった献立を作るという捉えでよい。
- ・家庭科における言語活動は、実感が伴ったもの、生活をよりよくするためのものと考えたい。体験の前に予想や考えをもたせる、体験後に自分の言葉でまとめたり自分と結びつけて発表したりする活動が望ましい。

## 4 成果と課題

## (1) 成 果

- ・カード、シート、提示画像など、教材教具の充実が児童の意欲を引き出し、基本的な一食分の献立で必要なものを理解することにつながっていて、効果的であった。
- ・教師の適切な指示や前時までの積み重ねにより、グループでの話し合いが活発に展開された。

## (2) 課 題

- ・児童が自身の食生活を振り返り、改善点に気付くようにするための活動を充実させ、実践につながるようにすることが大切であることを確認した。
- ・生活改善カードを活用し、家族と共に考えるきっかけにできればよい。